

下商物語

(その五十九)

「校歌・応援歌のはなし」

最終号

本校教諭 林 俊行

明治期から戦後にかけて歌い継がれた本校の応援歌を復活して同窓生有志が中心となつてCDを平成八年十月に頒布されました。代表世話人は、故山根宏氏（昭和二十八年卒 元京浜同窓会副会長）で、今では歌われなくなった応援歌十一曲を広く卒業生に呼びかけカセットテープに録音して譜面にしたうえで専門家に依頼してCDに収録したものです。

プロの方のご指導で、スタジオでの録音には、多くの卒業生の協力もあつて熱気が籠り、当時三千枚制作して、一枚二千元（原価）で販売されました。同窓会総会や同期会で重宝されて、皆さんが懐かしく聞き入っておられました。当時の多くの新聞各紙も「下商応援歌を復活」として取り上げられました。さらには、当時では珍しく市内のカラオケ店にもこのなか

に収録されている「下商校歌」が

下商野球部 部歌

一 碧空のもと風に飛ぶ 球に心と技を練る ここ千畳の原頭に薫る健児の意気を見よ
二 歴史は古き幾星霜 黄金の時代を胸に秘め 花や紅葉をよそにして 汗と力の朝ゆうべ
三 ああ幾度か手をとりて 共に歌いし勝鬨や 或いは我に幸なく 恨みの涙しほりけむ
四 さあ若人たゆみなく 来ん試合に備えつつ 生命の限り努めなば 栄冠なんぞ遠からん ※四番を繰り返す
この作詞は鶴田延二教諭（園漢）が担当 昭和十三年に甲子園

大会出場時に制作されました

汝等が鍛えに鍛えし(敗戦の歌)

汝等が鍛えに鍛えし 鉄腕も 負くるにあらねど時を如何にせん 心血そそぎし努力もあわれ 蚊龍隊して赤龍靡く されど託つは武士ならず 奮えよ起きてよ我がが選手 奮えよ起きてよ我がが選手 フレー フレー 下商

この歌は、大正時代から昭和十年代に歌われ、当初は端唄（ボート）部の対抗レースで負けた時に歌われていたもの、負けた相手がエールを贈りつつ歌ったもの

天地の精気防長の

一 天地の精気防長の 精華集めし千畳の 春乱桜の花の下 秋玲瓏の月光に 選ばれて立つ選手こそわが下商の健男児
二 肥馬原頭に嘶きて ここに開けし争鬨戦 秘めたる剣振りかざし 陣頭に立ち雄々しくも 駒を進める選手こそ わが下商の健男児
三 昨日驛馬に鞭打ちて 今日には奏でん勝の曲 千畳ヶ原に集いは 健児一千声高く 永久の覇権を寿がん 永久の覇権を寿がん

ちなみにこのCDに収録されている歌は順番に①下関商業高等学校 校歌 ②下商野球部部歌 ③汝等が鍛えに鍛えし ④誇れ選手よ 伝統を ⑤天地の精気防長の ⑥秋空のもと風薫る ⑦匂う東雲輝く日の出 ⑧天神怒り地祈怒る ⑨霜に乱るる暁の ⑩さわやかに ⑪春が来たかよ下 ⑫女子応援歌と全部で十二曲となっています。

懐かしい応援歌は全部で約二十曲程度あつたとされていますが、楽譜のないままで歌い継がれており収録時には大変苦労して採譜されたと応援歌復活委員会の方々には口々に言っておられました。平成八年の同窓会総会・懇親会で皆様方にお披露目され、プロの手によって仕上げられたこのCDに皆さん感無量で聞き入っておられました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。

懐かしい応援歌は全部で約二十曲程度あつたとされていますが、楽譜のないままで歌い継がれており収録時には大変苦労して採譜されたと応援歌復活委員会の方々には口々に言っておられました。平成八年の同窓会総会・懇親会で皆様方にお披露目され、プロの手によって仕上げられたこのCDに皆さん感無量で聞き入っておられました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。全国にも沢山の高校がありました。

最後に、これから先の輝かしい未来に向かって一歩一歩派手に歩む母校を陰ながら応援し続けようと思います。本当に水い間お世話になりました。感謝の思い一杯です。